令和7年度　岡山一宮高等学校　学校経営における具体的な取組

(1) 確かな学力向上と主体的に学ぶ態度の育成（総合評価： B ）

R8.3.17　提出用

担当	１年間の目標（達成された姿）	具 体 的 取 組	昨年度までの状況（課題）と改善の方向性	中間までの取組・成果と今後の方策	中間評価	最終の取組結果と次年度の方策	最終評価
教務課	**○1年間の目標** 「家庭学習を基本とした主体的に学習する力」を身につけた人材となる。 **○達成された姿** 将来を自ら切り開くことができる主体的な学習者となる。 **○評価基準**：アンケートによる評価を行う。 ・「家庭学習を基本として主体的に学習することができている」（生徒） ・「生徒が家庭学習を基本として主体的に家庭学習を行っている」（保護者） ・「家庭学習を基本として主体的に学習するために適正な課題量など工夫を行っている」（教員） 上記アンケート（年間複数回実施）結果から90％以上が肯定的に答えた場合「A」とする。	**○中間期まで** ・評議員による学習意識調査の実施（生徒） ・学習意識調査を分析・検討する。（生徒・教員の双方） **○年度末まで** ・改善点と改善策の考察と提案（生徒・教員の双方）	**○昨年度までの状況(課題)** ・主体的な学びに課題があり、将来を自ら切り開く力を醸成する必要がある。 ・学校評価アンケート(生徒・保護者)から課題量・質に対する提言が複数ある。 **○改善の方向性** ・生徒が主体的に学習に取り組めるよう課題の質や量の工夫をする。	**○中間までの取組・成果** ・生徒の「主体的に学習する力」を育むため、各HRで評議員が学習に対する姿勢や意識について呼びかけた。リフレクションシート・授業評価の学習意識調査と自由記述アンケートから分かる定量的な成果として、81.1%の生徒が「主体的な学習姿勢を意識して行動できた」と回答したが、目標基準の90%には達しなかった。しかし、自由記述からは、生徒自身が予習・復習の重要性や協働学習の価値、学習への興味・関心といった主体的な学びの鍵を深く理解していることがわかった。 **○今後の方策** ・生徒への結果共有と意識向上: 調査結果の具体的な数値（81.1%）を生徒にフィードバックし、主体的な学習への意識をさらに高める機会を設ける。 ・具体的な改善策の提案: 生徒の回答状況から見えてきた課題（例：課題の量や質、授業準備の具体的な方法など）を解決するための具体的な改善策を教員に提案する。（リフレクション・授業評価の分析結果をリフレクションシート・授業評価分析サイトで教員に周知する）	B	**○最終の取組結果** ・2学期の学習意識調査において、「主体的に（自分から進んで）学習に取り組むことができたか」という問いに対し、「はい」と回答した生徒は、76.5%となり「肯定的な回答90%以上」を大きく下回る結果となった。 主体的な学習を支えた要因（自由記述より） 「はい」と回答した生徒からは、 明確な目標設定ができ、学習計画を立てて、ペースを守って進められたことがあげられており、自己管理能力が主体性を支えていることが分かる。 「いいえ」と回答した生徒は、学校課題による時間の消失、自己管理への課題、学習手法の未習熟による主体性を発揮するための環境の未整備があげられる。 **○次年度の方策** ・教科課題の「量」の精査 ・自己管理能力を育てる指導 ・家庭学習におけるICTの支援検討	B
進路指導課	**○1年間の目標** 1年生では適切な文理選択、2年生では志望校群の検討、3年生では全員の進路目標達成。 **○達成された姿** ・5教科全国偏差値3年11月51.0 ・大学入学共通テスト全国平均以上 ・国公立推薦入試合格者75名以上 （国公立大55％以上、岡山大学15％以上、難関大学6名以上、浪人生20名以下） **○評価基準** 上記2つでA, 1つでB	**○中間期まで** ・進路講演会、学部学科説明会の実施。 ・校外模試の分析を模試ごとに実施する。 ・模試ごとに進路面談を実施する。 ・学習アドバイスの取りまとめをする。 **○年度末まで** ・中間期までの取り組みを振り返りながら、引き続き模試分析等の取組を実施する。 ・3年生は自己探究プログラムで、面接対策やプレゼン講座など実施する。	**○昨年度までの状況(課題)** ・共通テストでは全国平均に届いていない。 ・推薦入試の合格者数、合格率ともに減少している。 **○改善の方向性** ・模試ごとに細かく分析を行い、定着が不十分な箇所を補填してもらうよう各教科に呼びかける。 ・進路LHR,講演会を活用しながら、自己理解、大学調べを行っていく。 ・進路探究をとおして、志望理由の内容を深めていく。教員への志望理由についての研修を実施する。	**○中間までの取組・成果** ・進路面談の実施 ・1年　9月（45未満）実施予定 上位層はハイレベル模試 ・2年　9月（上位層・下位層） ・3年　5月（600点未満80名弱） 1,2学期（難関大学層30名弱） 難関大学講座（英・数） ・志望理由書教員研修の実施（8月） ・進路講演会（3年生6月、難関大希望者6月）の実施 **○今後の方策** ・引き続き、模試分析、進路面談を行いながら、学力の定着を図る。3年生難関大指導を5教科に広げていく。	B	**○最終の取組結果** ・3年生マーク模試平均点推移 6月（文529.8 理536.4）→ 9月（文551.1 理540.1）→ 11月（文581.8 理570.0） → 12月駿台（文582.9 理590.2）→ 12月高予備（文627.6 理624.2） ・11M 文系6-9 偏差値53.5　理系6-8偏差値 50.4 ・模試分析 → 改善を通して学力は順調に伸びてきている。 ・1年生では学部学科説明のためのLHRを増やし、それに関する講演会を行い、文理選択への支援を行った。 ・2年生では進路通信で様々な大学の紹介を行い、生徒の視野を広げ、志望校群を拡大を行った。 ・3年生難関大学志望者数（11M）42名　（昨年度同時期21名） （神戸15名　九州10名　大阪9名　名古屋4名　北海道4名） 難関大学志望者の数は昨年より増えている。 ・年内入試合格者（国公立）　総合型15名/30名　学校推薦25名/52名 昨年度 総合型14名/34名 学校推薦23名/56名　昨年度より合格率は上がっている。 受験者数はやや減少だが、バランスを考えると、いい傾向だと捉えている。 **○次年度の方策** ・ゴールを見据えた教科指導、学力の定着。 ・入れる大学ではなく入りたい大学へ向けての志、学力の涵養。 ・模試では分からない、アセスメントテストに基づく生徒の学力把握と具体的な助言。	B
図書課	**○一年間の目標** ・学校図書館を活用した読書習慣の確保。 ・各種探究活動機関との連携。 **○達成された姿** ・全学年を通して、学校図書館を利用した読書量が確保できている。 ・各種探究活動機関と連携した活動がなされている。 **○評価基準** 評価B：全校生徒貸し出し利用率ならびに未貸出率の前年度維持。 卓越探究推進PTとの連携による探究学習資料数の増加。 評価A：全校生徒貸し出し利用率が前年度を上回るとともに、未貸出率が前年度を下回る。 外部機関との連携を通じた探究的取組がなされた。	**○中間期まで** 図書委員を主体にした読書広報活動の充実と、授業での図書館利用の情報発信を行う。 各教科ならびに、卓越探究推進PTへ希望書籍を募る。 **○年度末まで** 学年毎の貸し出し利用率ならびに未貸出率を検証し、利用率の低い学年にむけた図書館利用促進の情報発信を行う。 外部機関との交流を通し、図書館利用活性化に向けての探究的取組を行う。	**○昨年度までの状況(課題)** 貸出者率:67%　未貸出者率：33% 授業での図書館利用14科目 〔課題〕 未貸出者（一度も貸し出しがない人）が一定数存在する。 授業での利用科目の偏りがある。 各種探究活動機関との連携が薄い。 **○改善の方向性** 読書傾向の検証を通した図書館利用の啓発。 授業での図書館利用情報の継続的発信。 探究活動機関との連携を密にすることで、必要とされる図書資料の充実を図る。	**○中間までの取組・成果** ・貸出利用率ならびに貸出冊数（8月31日現在） 1年:92%　2年:85%　3年:28% (昨年9月　1年:91% 2年:57% 3年:32%) 貸出冊数：3,859冊（前年度同時期:2,842冊） 授業での図書利用活発化が功を奏し、貸出冊数は前年度を大きく上回っている。貸出率も1・2年ともに昨年度を上回った。3年は昨年度にやや及ばず。 ・未貸出者数 1年:25名　2年:48名　3年:224名 授業での図書利用の差が学年ごとの差に繋がっている傾向が強い。 (昨年度末　1年:19名 2年:116名 3年:175名) ・各教科ならびに卓越探究推進PTへの希望書籍調査未実施 ・図書委員会探究チームの取組とともに、N清心女子大学情報デザイン学部学生との交流を通し、本校図書館利用活性化に向けての活動開始。 **○今後の方策** ・年度後半利用率が下降傾向になるため、授業での図書館利用の情報発信を活発化し、読書量の確保へ繋げる。 ・各種探究活動機関との連携を進める。	B	**○最終の取組結果（12／31現在）** ・貸出利用率ならびに貸出冊数 1年生：93%　2年生：85%　3年生：35% （昨年度同時期：1年生94%、2年生63%、3年生41%） 全　体：71%（昨年度同時期66%） 貸出冊数（生徒のみ）：5,447冊（昨年同時期3,900冊） ・未貸出者数 1年生：24名　2年生：46名　3年生：202名 （昨年度末：1年生19名、2年生116名、3年生175名） ・貸出利用率、貸出冊数共に前年度を上回り、活発な図書館利用がなされている。しかし、授業での図書利用が結果に大きく影響しており、読書習慣の確保に至っているとは言いがたい。また、探究活動の深化に繋げる図書館利用のあり方については課題が残る。 ・図書委員会探究チームがN清心女子大学情報デザイン学部と連携し、本校図書館利用活性化への施策に向けた探究活動を継続中。 ・エンハンスPTとの連携により、図書館を会場に「東大理学部高校生のための冬休み講座」をオンライン開催 **○次年度の方策** ・1、2年生の読書習慣確保に向けての取組を強化するとともに、3年生に向けて図書を利用した進路探究を促すことで、探究活動深化に繋がる情報提供の場としての図書館運営を工夫する。 ・各教科や進路課、課題探究との連携を強化することで、書籍の有意性や図書館が多様な情報取得手段が用意されている情報取得に有用な場としての利用を促す。 ・各種探究活動機関と連携し、様々な講演会やイベント会場としての図書館利用を促す。	B
1年団	**○1年間の目標** ・自主的に学ぶ態度を持ち、自己決定ができる人材となる。 **○達成された姿** ・確かな学力を伸ばす土台となる学習習慣が確立している。 ・自己理解を深め、自分の将来を考えた文理科目選択ができている。 **○評価基準** ・学習実態調査の週平均が180分以上 ・学校評価アンケートの生徒項目「進路決定に向けて情報提供や面談など、きめ細かい指導が行われている」で85％以上 上記2項目の同時達成でAとする。	**○中間期まで** ・4月に1週間の学習計画を立てさせ、学習状況の記録をとり、取り組みを客観視させる。それを踏まえた、担任面談を行う。 ・大学に関する情報提供を行う。また文理選択についての考え方を知る時間や自分の進路選択について情報収集する時間をLHRなどで実施する。 **○年度末まで** ・年間3回以上の学習実態調査を行う。必要に応じ、土日のみなどの学習実態調査を行う。これらの結果を分析し、フィードバックする。 ・年間4回の担任面談を実施。学習上の助言や進路情報を提供する。	**○昨年度までの状況(課題)** ・学習習慣の定着が課題である。 ・学習の意義を見いだしたり、自己の将来を考えるために、学校生活の諸活動を通して、自分の長所や特性を自己理解する必要がある。 **○改善の方向性** ・学年、教科で学習習慣の確立に向けた指導を行っていく。 ・授業や部活動、課題研究、ボランティア等の活動に参加することを呼びかけたり、自分の将来について考えたりする時間を設定する。	**○中間までの取組・成果** ・第1回学習実態調査 週平均261分　平日206分、休日350分 ・第2回学習実態調査 週平均273分　平日215分、休日363分 ※いずれも考査1週間前に実施。 ・学習に関する学年通信を7部発行し、学習習慣の維持・向上をSHRで指導した。 ・進路LHRで、学問、職業から自分の進路を考える方法を進路サイトや大学HPで指導した。 **○今後の方策** ・考査期間以外での学習実態調査を実施 ・文理選択後に、学部の特色について情報提供を行い、進路検討を進められるよう支援する。	B	**○最終の取組結果** ・学習実態調査 第3回：　週平均179.5分　平日152.1分、休日225.1分 第4回：　週平均266.6分　平日209.6分、休日356.9分 （※第3回は、考査期間外に実施。第4回は考査前実施） ・上記結果より、国数英を中心に概ね3時間程度学習ができている。 ・評価基準の学校評価アンケート結果は95.5%である。また同項目の評価指数が過去から、(6.1)、(5.1)、(6.6)で過去3カ年では最高値である。中間期以降、大学、学部学科を調べるLHRを年間計画に2回加えて実施した。また11月面談で、興味関心の幅を広げ進路研究をするよう声掛けをしている。1学期よりも視野を広げて将来を検討する方法や視点を手に入れた。 **○次年度の方策** ・5教科型の学習習慣を意識させ、学習時間の総量を上げる必要性を学期毎の学年集会等等で説明し、理解させ、行動の変容を図る。 ・担任面談、LHRなどで、自己の適性を分析させ、学部学科の絞り込みと大学でやりたい研究の発見させる。最終具体的な志望校群を検討できるよう指導を行う。	B

2年団	**○1年間の目標** 国数英を中心にした5教科の学習習慣定着と学力の向上を図る。 **○達成された姿** 国数英を中心にした5教科の学習習慣が定着し、学力が向上している。 **○評価基準** 評価B⇒学習実態調査(3回)の週平均がいずれも180分以上である。 評価A⇒学習実態調査(3回)の週平均がいずれも200分以上である。	**○中間期まで** ・学年団で共通認識を図り、当初面談で目標学習時間について指導を行う。 ・進路指導課と協力し、各教科で課題量や学習時間に関するすり合わせを行う。 **○年度末まで** ・各教科で課題量や学習時間に関するすり合わせを継続して行う。 ・成績上位者に向けた個別指導を行う。 ・学習実態調査だけでなく、面談前にも学習時間に関する聞き取りを行い、その都度学習時間に関する指導を行う。	**○昨年度までの状況(課題)** ・昨年度考査のない時の学習状況は、平日140分、休日180分で、週平均にすると150分であった。2年第1回スタディサポートでも、約半数の生徒が学習習慣に関して改善が必要というデータが出ている。 **○改善の方向性** ・学年、教科で継続的に学習習慣の定着に向けた振り返りを行っていく。 ・成績上位者の意識向上に向け、ハイレベル模試の受験者が増えるよう声掛けをしていく。	**○中間までの取組・成果** ・学習実態調査を2回実施し、生徒の学習習慣の把握に努めた。その結果をもとに、学年集会等で具体的にやるべきことを伝えることができた。 ・学年会議で学習に関する結果を共有し、今後の方針をすり合わせることができた。 ・学習時間は週平均155分という結果だった。 ・進路指導課と協力し、進研模試の成績上位者と成績不振者に面談を行った。 **○今後の方策** ・銀杏祭終了後、上位者に向けた個別指導を始める。 ・学年集会やLHRで5教科型の勉強を始めるとともに、学習時間をさらに伸長させるよう声掛けを続ける。	B	**○最終の取組結果** ・学習時間については平日140分、休日200分で週平均は約160分であった。前回よりは少し伸びたが、目標には届かなかった。今後3年生に向け、学習量を増やしていけるよう、面談や集会を通じて伝えていく。 ・ハイレベル模試の受験者は約50名と昨年と比べて増加してきた。集会等で高い目標を持つ大切さを伝えた結果だと考えられる。 ・銀杏祭後、上位者に向けた個別添削指導を開始することができた。 ・進路指導課と協力し、模試の結果によって生徒面談を行うことができた。 ・学年会議で学習に関する結果を共有し、今後の方針をすり合わせることができた。 **○次年度の方策** ・3月にスタサポを実施し、その結果を踏まえ特に学習習慣の改善が必要な生徒に対し、3年の早い時期に個別面談を実施して意識の向上をはかる。 ・進路探究を充実させ、志望校の早期決定を目指す。また2年時に取り組んだ課題探究での学びを進路指導、進路実現に活かせるように、学年で見極めながら指導をしていく。	B
3年団	**○1年間の目標** ・適切な自己理解に基づく志望校の決定 ・進路実現に向けた学力の向上 **○達成された姿** ・国数英全国偏差値3年11月52.0 ・5教科全国偏差値3年11月51.0 ・大学入学共通テスト全国平均以上 **○評価基準** 上記2つでA, 1つでB	**○中間期まで** ・進路検討会議を行い, 適切な志望校の決定を行う。 ・志望理由書の作成によって, 適切な自己理解に基づく志望校の決定を行う。 ・成績上位者を対象に個別指導を実施して, 学力の向上をはかる。 ・中間期までに 国数英全国偏差値3年4月55.0→3年6月55.0→3年7月55.0 5教科全国偏差値3月4月55.0→3年6月55.0→3年7月55.0 **○年度末まで** ・成績上位者を対象に個別指導を実施して, 学力の向上をはかる。 ・年度末までに 国数英全国偏差値3年11月52.0 5教科全国偏差値3年11月51.0	**○昨年度までの状況(課題)** ・昨年度末には、全体として成績は上昇したが、中上位層の底上げが課題である。 **○改善の方向性** ・学習習慣の少ない科目を中心に, 学習習慣の定着を図っていく。 ・2年次に取り組んだiC課題探究α, iC理数探究αで学んだプレゼンテーション力, コミュニケーション力を活かして「総合型」「学校推薦型」での合格を目指す。また, 3年次での進路探究を充実させる。	**○中間までの取組・成果** ・進路検討会議(7月7～9日)を行い、保護者面談(7月24,25,28)で適切な志望校の提案を行った。 ・早期に志望理由書を作成することによって、適切な自己理解に基づく志望校決定の手助けとなった。(志望理由書リライト返却済) ・進路指導課が企画して英語、数学の成績上位者指導を実施し、学力の向上をはかっている。 ・国数英全国偏差値3年4月53.0 → 3年6月54.1 → 3年7月54.6 5教科全国偏差値3月4月54.1 → 3年6月52.9 → 3年7月54.1 **○今後の方策** ・第2回進路検討会、保護者懇談の実施 ・成績上位者指導の継続	B	**○最終の取組結果** ・進路検討会議(12月8～10日)を行い、保護者面談(12月12,15,16日)で適切な志望校の提案を行った。 ・進路指導課が企画して成績上位者指導を英語、数学に加え、10月以降は5教科すべてで実施して、学力の向上をはかった。 ・iC進路探究では1学期に志望理由書作成、2学期に自己探究プログラムを実施した。 ・国数英全国偏差値 3年4月53.0 → 6月54.1 → 7月54.6 → 9月52.7 → 10月51.4 → 11月52.8 ・5教科全国偏差値 3年4月54.1 → 6月52.9 → 7月54.1 → 9月51.7 → 10月52.2 → 11月51.9 ・学校評価アンケート(評価指数) 「進路決定に向けて情報提供や面談など、きめ細かい指導が行われている」 令和5年度6.0 → 令和6年度5.9 → 令和7年度6.1 「大学との連携事業や講演会など、進路実現に関する行事が充実している」 令和5年度4.4 → 令和6年度5.2 → 令和7年度5.2 **○次年度の方策** ・進路検討会議で志望と学力に応じた適切な志望校の提案を行い、その内容を保護者面談で伝え、受験校を決定した。 ・共通テストのデータ分析や検討会議での情報を提供し、最終的な出願先を決定させた。 ・共通テスト後も2次指導や小論文指導を行い、最後まで生徒の学力伸長に努め、全員の進路実現を達成する。	A

(2) 真の探究力を育む全校体制によるSSH事業の推進 （総合評価： A ）

担当	１年間の目標（達成された姿）	具 体 的 取 組	昨年度までの状況（課題）と改善の方向性	中間までの取組・成果と今後の方策	中間評価	最終の取組結果と次年度の方策	最終評価
理数科	**○1年間の目標** ・理数科生の科学的探究力を高めるために理数科独自の学校設定科目や行事を充実させる。 ・新しい理数科教育（行事や学校設定科目の内容等）を検討する。 **○達成された姿** ・理数科生の科学的探究力が高まっている。 ・新しい理数科教育が検討され、提案されている。 **○評価基準** ・12月に実施する生徒アンケートにおいて80%の生徒が科学的探究力が高まったと回答する。(A基準:90%) ・来年度に向けて新しい理数科教育が一つ以上提案されている。(A:提案された内容が承認され、来年度に実施される予定となる)	**○中間期まで** ・学校設定科目や行事の実施前に協議等を綿密に行い、定期的に振り返りや分析等を行う。 ・他校の理数科教育の特長を調べ、情報交換を行い理数科内で協議をする。 **○年度末まで** ・生徒アンケートを分析し、振り返りを行うことで来年度に向けて協議を行う。 ・来年度実施に向けて課長会、校務運営委員会、職員会議等に提案を行う。	**○昨年度までの状況(課題)** ・学校設定科目や行事ごとに事前・事後のアンケートは実施しているが、理数科教育全体で科学的探究力が高まったという項目でアンケートは実施していない。 ・理数科を第一希望として志願する生徒が減少している。 **○改善の方向性** ・学校設定科目や行事に関して、これからの理数科教育の充実のため、さらに内容を検討していく。	**○中間までの取組・成果** ・1学期に行われた行事について、実施前に理数科会議や各科目分野の会議において綿密に協議を行った。実施前後のアンケートを実施し、現在分析中である。 ・理数科教員16名が西日本にある理数科をもつ高校について、1名あたり3校～8校をホームページを中心に「興味深い取組内容で本校に導入したらいいのでは？」という項目を調べた。 **○今後の方策** ・学校設定科目や2学期以降の行事について生徒アンケートを実施・分析し、理数科会議等で協議をして来年度に向けて改善案をまとめていく。 ・今後、調べた結果を協議して、課長会、校務運営委員会、職員会議等に提案を行う。	B	**○最終の取組結果** ・12月に実施した生徒アンケートにおいて「学校設定科目の授業や理数科特有の行事などで科学的探究力が高まったか」という質問に「大きく高まった」と答えた生徒は1年で44.8%、2年で50.8%、「まあまあ高まった」と答えた生徒は1年で55.2%、2年で47.6%であり、90%を大きく上回った。 ・西日本にある理数科をもつ高校の特徴的な教育を調べ、その中で本校に導入すれば効果的な行事等を会議で協議した結果、次の3点、①1年～3年が一同に集まる理数科集会②オープンスクールで外部向けの理数探究発表会③鳥取大学との新たな連携について来年度から実施することを決定した。現在、細案を作成中であり、今後、運営委員会、職員会議で協議する予定である。 **○次年度の方策** ・学校設定科目の内容や行事等をさらに充実したものになるように、常に振り返りを行うシステム作りを行う。また、新年度から行う予定の新しい行事等において、目的が達成されるように計画を行い、実践する。	B
SSH戦略室	**○1年間の目標** 全校的な探究活動の基盤づくりを行い、iC（情報分析活用力・論理的思考力・決断実行力）の育成を目指す。「探究連鎖プログラム」で授業を中心とした校内の探究活動、「探究連鎖プログラム」は校外の体験（研修等）、「教員研修プログラム」で教員の探究指導力向上を目指す。 ○達成された姿 iCルーブリックを活用した評価を通して、生徒のiCが定量的・定性的に伸びている。 **○評価基準** 各学年のiCアンケートにおける4月～12月の変容について A:下位尺度15項目すべて伸びている B:「情報分析活用力」「論理的思考力」「決断実行力」の平均値が伸びている C:「情報分析活用力」「論理的思考力」「決断実行力」の平均値でどれかが下がっている	**○卓越探究プログラム（卓越探究PT, 評価・広報PT）** **【中間期まで】** ・各学年の探究活動における生徒の進捗状況および教師の指導状況を共有する。 **【年度末まで】** ・各プログラムの分析を行う。 **○探究連鎖プログラム（エンハンスPT, グローバルPT）** **【中間期まで】** ・課外活動報告書を集約し共有する。 **【年度末まで】** ・外部連携の成果を全体で共有する。 **○教員研修プログラム（教員研修PT, 評価・広報PT）** **【中間期まで】** ・一宮探究型授業の実践報告書の集約。 **【年度末まで】** ・実践報告書の公開及び分析を行い、授業実践内容を可視化・共有を行う。	**○卓越探究プログラム** ・ 指導体制の明確化を行う（チーム指導制や教員間連携の強化）。 **○探究連鎖プログラム** ・ 課外活動と学びの接続を意識した設計・連携体制の強化。「探究とのつながり」「育成する力」などを明示する事前指導を設計する **○教員研修プログラム** ・ 教員間の授業改善実践を可視化・共有する仕組みづくり。	**○中間までの取組・成果** iCアンケート結果（【iC】2024年→2025年） 【情報分析活用力】3.15→3.30 【論理的思考力】3.14→3.26 【決断実行力】3.18→3.33 ○卓越探究プログラム ・週1回のPT会議で進捗を共有。 ・1・2年生に対しては探究面談を実施予定。 ・評価方法を確立し、年度末に向けた分析の基盤を整えた。 ○探究連鎖プログラム ・振り返りフォームを作成し、8月25日時点で研修参加者45名が入力を完了。 ・サイエンスレクチャーでは、研修前後の自身の変化を言葉で説明できる生徒が増加し、学習成果の自覚が進んだ。 ○教員研修プログラム 実施報告書は作成を呼びかけている。2学期に実施されたものも含めて集約する予定である。 **○今後の方策** iCアンケートで依然として数値が低めにとどまっている「論理的思考力」を重点課題とする。探究発表や振り返りの場面で、根拠に基づいた論理展開を求める指導を強化する。	B	**○最終の取組結果** iCアンケート結果（【iC】2025年4月→12月） 【情報分析活用力】3.30→3.78 【論理的思考力】3.26→3.74 【決断実行力】3.33→3.75 ※iCの全下位尺度15項目において、平均値が向上した ○卓越探究プログラム 探究の視点を取り入れた授業を実施し、探究面談やiCベースの評価を通して生徒の思考過程を可視化した。情報収集や判断に関わる項目を中心にiCが向上し、探究の質の底上げに寄与した。。 ○探究連鎖プログラム サイエンスレクチャー等の校外体験を探究の振り返りと接続することで、学びを言語化する機会が増加し、特に判断力・決断実行力に関わる項目の伸長を後押しし、iC全体の底上げに波及効果を与えた。 ○教員研修プログラム 授業参観シートや評価比較を通じて探究型授業が校内に浸透し、問い返しや根拠提示を重視する指導が広がったことで、生徒の論理的思考力・表現に関わる項目も含め、iC15項目すべての安定した向上を支えた。 **○次年度の方策** 次年度はiC育成を引き続き軸としつつ、特に論理的思考力の伸長を重点課題とする。探究発表や振り返りにおいて、主張と根拠の関係を明確に示す構成を求め、思考過程を言語化する指導を強化する。また、卓越探究・探究連鎖で得られた分析結果を教員研修に還元し、評価観点や指導の工夫を全校で共有する。授業と探究を往還させた指導改善を通して、探究の質を継続的に高める体制を構築する。	A

UNESCO係	**○1年間の目標** ・外部機関・校内の他分掌と連携しながら、校内でのESD（SDGs）を周知し、生徒の社会貢献への意識を醸成する。 **○達成された姿** ・委員会や部としてユネスコの啓発活動ができる。 **○評価基準** ・学校自己評価アンケート（生徒）32.「岡山市や地元公民館主催行事に積極的に参加している。」 ・学校評価アンケート（生徒）24.「学校では国際理解や環境問題・社会貢献などに関する活動の機会が充実している。 A基準：よくあてはまる　1・2年20%以上 　　かつ　ややあてはまる　1・2年50%以上	**○中間期まで** ・岡山市や地域公民館、近隣小中学校との連携。 　ザ☆キッズ、防災ボラ、パソコン教室、親子わくわく教室 ・授業「課題探究」との連携。 ・ユネスコ・SSH委員会やユネスコ部等の活動をニューズレター発行により全校に発信し、周知させる。 **○年度末まで** ・生徒アンケートを分析し、振り返りを行うことで来年度に向けて協議を行う。 ・来年度に向けて職員会議等に提案を行う。	**○昨年度までの状況（課題）** ・生徒たちが取り組む活動（社会貢献活動等）がユネスコスクールとしてどういう意義・関わりを持っているのかという意識付けが不十分である。 　学校自己評価アンケート「岡山市や地元公民館主催行事に積極的に参加している。」 　よくあてはまる（R6：1年18.7%、2年18.3%、3年16.3%） 　ややあてはまる（R6：1年46.0%、2年45.5%、3年44.7%） **○改善の方向性** ・ユネスコ委員会、ユネスコ部のニューズレターを通して、自分たちの活動の意義を全校生徒に伝えていく。	**○中間までの取組・成果** 　社会貢献活動だけでなく、地域のイベントに参加した際に提出する報告書を作成した。 　防災ボランティア・パソコン教室・ザ☆キッズ、オープンスクール座談会ボランティアなど校内実施で参加しやすい社会貢献活動を実施し、1・2年生を中心に多くの生徒が参加できている。 　地域主催行事に参加を促すために、ユネスコ委員会ユネスコ部によるユネスコ通信の制作しなければならないが、未着手である。 **○今後の方策** 　ユネスコ通信の制作に取り組むこと、毎月のテーマ決定や分担などについて、ユネスコ委員会ユネスコ部合同会議を開く。	B	**○最終の取組結果** ・学校評価アンケート（生徒） 　32.「岡山市や地元公民館主催行事に積極的に参加している」 　よくあてはまる1年18.0%　2年14.5%　ややあてはまる1年41.2%　2年47.6% 　24.「学校では国際理解や環境問題・社会貢献などに関する活動の機会が充実している」 　よくあてはまる1年34.9%　2年30.6%　ややあてはまる1年55.7%　2年57.3% ・1年生でかけな祭・2年生社会貢献活動等、外部機関・校内の他分掌と連携しながら、校内でのESD（SDGs）を周知し、生徒の社会貢献への意識を醸成することができた。 ・普通科2年生課題探究では外に出て行く活動を促進し、多くの班が複数回岡山市内市外地元公民館等へ出かけて地域と連携した探究活動に取り組むことができた。 ・ユネスコ部は1年生2名という部員数でありながらもユネスコスクール実践交流会でポスターセッション・ワークショップをやりとげ、ユネスコ委員会としても2年生の社会貢献活動を全校生徒に知らせる通信UNEstyleを発行することができた。学校評価アンケートの数値目標は達成できていない部分もあるが、年度評価として十分Aだと言える。 **○次年度の方策** 　ユネスコ委員会とユネスコ部とが定期的な交流会を開き、年間を通して校内でのESD(SDGs)を周知していく。	A

(3) 安心・安全な学校生活の保障と充実 （総合評価： B ）

担当	1年間の目標（達成された姿）	具 体 的 取 組	昨年度までの状況（課題）と改善の方向性	中間までの取組・成果と今後の方策	中間評価	最終の取組結果と次年度の方策	最終評価
生徒課	**○1年間の目標** 人生を豊かにするライフスキルの向上を図る。 **○達成された姿** ・「自分からあいさつできる生徒」が増える。 ・自他の安全へ配慮した交通マナーが身に付いた生徒が多い。 **○評価基準** 生徒課独自アンケート ・「あいさつの習慣が身に付いている」と肯定的に回答する生徒が、年度当初から12月までで10%以上伸びる、かつ85%以上である。 ・「交通マナーが身に付いている」「交通ルールが守れている」の項目で、肯定的な回答が85%以上ある。 （評価A：両方とも達成する）	**○中間期まで** ・生徒会や委員会等を中心に、生徒主体の取り組みを進めるとともに、啓発ポスターや呼びかけを行う。 ・フィードバックを行い、「どこがよかったか」「今後どうするか」を考えさせる。 ・アンケート等による成果を可視化し、成長を実感させる。 **○年度末まで** ・定期的に振り返りを行い、定着化させ継続的な取り組みへつなげる。	**○昨年度までの状況（課題）** ・朝から元気よく挨拶ができる生徒が少なくなった。また、遅刻数が年々増加しており、基本的生活習慣の乱れが心配される。 ・令和6年度事故件数は24件で、前年度より13件増加した。自転車マナーに関する苦情もあり、交通安全への意識の高揚が必要である。 **○改善の方向性** ・あいさつ運動が形骸化している。あいさつの輪が広がる生徒主体の取り組みを行うことで、自らあいさつができる生徒を増やす。 ・マナーに関する指導を継続的に行うとともに、委員会や生徒会の生徒による啓発活動の機会を増やしていく。	**○中間までの取組・成果** ・昨年度までの「あいさつ運動」の方法を工夫し、回数を増やしたことで、担当係以外の生徒の参加も、少数ではあるが見られるようになった。 ・交通マナーに関しては、交通委員が主体となり、ヘルメット着用啓発動画の配信や事故件数、危険箇所の周知を行うなどの活動が進んでいるものの、事故件数は増加している。 　事故件数（8月末）・・・10件（R6）　⇒　13件（R7） **○今後の方策** ・後期委員会では、アンケート結果等を分析し、生徒主体で今後の活動方針を決めていく。 ・「あいさつ運動」の周知がまだ不十分であり、今後は啓発ポスター等を作成して呼びかけを増やしていく。 ・これまでの事故の多くは、自転車通学中である。事故を起こさないための取組を継続し、自転車のマナーが身についた生徒を育成するとともに、起こったときに大怪我に繋がらないよう、ヘルメットの着用率の向上を目指す。	B	**○最終の取組結果** 生徒課独自アンケート ・「あいさつの習慣が身に付いている」 　肯定的意見　5月89.8%　⇒　12月94.6% ・「交通ルールが守れている」 　肯定的意見　5月87.2%　⇒　12月88.3% ・「あいさつ運動」の回数を増やしたことで、一定の効果はあったものの、実際の肌感覚としては、自らあいさつができる生徒は、まだ少ない。 ・事故件数は、依然として多い。（1月末・・・24件（R6）　⇒　30件（R7）） ・ヘルメットの着用率は、2，3年生については増加している。ただ、1年生の着用率が年度当初から大幅に減少しており、中学時代に習慣化していたことが、周囲の影響によりできなくなっていることがわかる。 （ヘルメット着用率）生徒課独自アンケートより 　1年生　5月23.5%　⇒　12月16.5% 　2年生　5月9.9%　⇒　12月13.6% 　3年生　5月7.0%　⇒　12月16.2% **○次年度の方策** ・あいさつ運動が形骸化しているため、生徒の変容目標を立て、根拠を持ったあいさつ運動が展開できるようにしていく。委員会による啓発だけでなく、部活動等も含めた生徒からあいさつの輪が広がるような活動を工夫する。 ・自他の安全に配慮した交通マナーの育成を目的として、自転車に関する法改正を踏まえ、交通ルールをより一層遵守した安全運転ができるよう、生徒主体の取組を進めていく。また、ヘルメット着用率の向上についても重点的に取り組む。	B
教育相談室	**○1年間の目標** 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援する。 **○達成された姿** ・多くの生徒、保護者、教員が、悩みを相談しやすいような環境や機会が設けられていると感じている。 **○評価基準** 「学校評価アンケート」教育相談項目において、生徒・保護者・教員ともに肯定的な評価85%以上。	**○中間期まで** ・入学前情報収集（中学校・保護者より）。配慮すべき事項の確認。 ・SC、心の健康相談、SSWなど相談機会の調整と実施。 ・相談室係会での情報交換。 ・長欠調査の実施、情報共有。 ・心理検査（i-check)1回目全学年実施、注視すべき生徒の顕在化と共有。 ・教職員研修（8月） **○年度末まで** ・SC、心の健康相談、SSWなど相談機会の調整と実施。 ・相談室係会での情報交換。 ・長欠調査の実施、情報共有。 ・心理検査（i-check)2回目全学年実施、注視すべき生徒の顕在化と共有。	**○昨年度までの状況（課題）** ・多様な生徒を理解し支援するために、教職員のカウンセリングマインドを高めることが必要である。 **○改善の方向性** ・SCコンサルテーションに担任も同席する。 ・教職員研修で、専門的な知識を得る。 ・生徒支援に必要な情報は、関係各署と共有する。	**○中間までの取組・成果** ・入学前情報「気になる生徒情報」について中学校との引き継ぎを行った（電話・来校）。また、新入生登校日に、保護者・本人と入学前相談（面談）を実施した。さらに、「学校生活サポートシート」に面談希望のある保護者については、担任やSCに繋いだ。 ・SC9回（年間24回中）、心の健康相談1回、SSW相談4件、外部機関との連携3件　実施済。 コンサルテーションにおいて、概略情報を担任と共有している。また、係会（月1）での情報共有も重視している。 ・長欠調査等各種調査（県）報告　学校全体の状況把握に努めた。 ・icheck1回目実施済み（注視すべき生徒は生徒課と共有） ・教職員研修「教師のカウンセリングマインド」実施。 **○今後の方策** ・多様な生徒理解を支援するためにSCコンサルテーションでの情報共有や教員同士のコミュニケーションを大切にする。	B	**○最終の取組結果** ・「学校評価アンケート」教育相談項目20において、評価指数は前年度より向上している。 （肯定的評価　生徒87%、保護者71%、教員97%） ・相談室係会月1回年間11回実施、SSWを含め係会メンバーと学校全体の注視すべき生徒について情報共有を行った。 ・長欠調査を月1回年間11回実施、県調査への報告と共に、配慮が必要な生徒の動向を共有した。 ・SC年間23回実施（12月末現在18回実施済み。相談件数：生徒38人保護者18人）。心の健康相談学期に1回年3回実施（12月末現在2回実施済み。相談件数：生徒5人保護者4人）。SC、SSW、学校医と連携し、情報共有や外部相談機関の紹介、対応方法などの相談や生徒・保護者・担任への助言を行った。利用人数も多く、相談しやすい場の提供を行うことができている。 ・SSWとの連携により、不登校生徒を持つ保護者や家庭環境の問題を抱える生徒保護者へのサポートを行った。担任の先生とは違う立場で転学先や対処法など適切な助言をいただいている。 ・地域こどもセンターとの定期的な情報共有（現在3ヶ月に1回の生徒2人） ・icheck1年2年は2回、3年は1回実施。生徒の実態把握の参考になっている。 ・教職員研修「教師のカウンセリングマインド」講師：SC大西由美先生　実施。ワークを通して、生徒理解を深めた。 **○次年度の方策** ・入学時に発達障害などの診断のある生徒も増加傾向である。相談内容も多岐にわたる。それぞれの特性や事案に合った対応が求められている。支援が必要な生徒について、日々の観察や声かけなど対応方法を共有できるよう、情報共有に努める。 ・教員研修において、SSWの方からのお話をいただく予定である。（さまざまな立場からの学校への助言が必要と考えている）	B
厚生課	**○1年間の目標** 生徒が心身ともに健康で、安心・安全に学校生活を送れる環境をつくる **○達成された姿** ・自らの健康状態を理解し、健康意識を高めることで、疾病予防などの自己管理ができる。 ・高い防災意識を持ち、災害時には適切な行動をとることができる。 ・生徒の主体的な活動の一環として清掃活動が実施され、積極的に校内美化に取り組んでいる。 **○評価基準** ・治療指示書の提出率60%以上（A：70%以上） ・生徒による防災意識に関するアンケートで肯定意見80%（A：90%以上） ・学校評価アンケート「清掃時間にはしっかりと清掃を行い、校内美化に努めている。」で生徒・教員ともに80%以上が肯定的にとらえている（A：90%以上）	**○中間期まで** ・身体計測や各種検診を行い、自分自身の健康状態を十分に理解させる。検診結果を伝え、必要なものには治療指示書を渡し通院を促す。 ・防災訓練や防災冊子の作成を適宜見直しながら実施し、教職員や生徒の防災意識の高揚をはかる。 ・全員清掃に対応できるよう清掃分担の再構築と清掃道具の整備を行う。 ・整備・防災委員を中心として生徒主体の清掃点検、防災チェックを行う。 **○年度末まで** ・（随時）各取組の事後に実施する振り返りアンケートを分析し、次年度に向けた改善策を協議する。 ・毎日清掃や全員清掃の成果、課題について協議し、必要に応じて次年度に向けての提案を行う。	**○昨年度までの状況（課題）** ・身体計測、各種検診は正しく実施できている。治療指示書の提出率は県平均と比べて十分高い。配布後の個別指示などを適切に行うことで現状を維持していく。 ・保健LHRは正しく実施されており、生徒の健康意識を高めることにつながっている。 ・月、水、金の清掃実施としたが、行事や祝日等で実施日が少なくなる週もあり、ほこりやゴミが目立つことがあった。 **○改善の方向性** ・保健LHRでは、講師や実施方法を考え、さらなる意識高揚へつなげる。 ・毎日清掃に変更し、清掃習慣の定着をはかる。また全員清掃とすることで、生徒全員で環境美化に取り組む姿勢を養う。	**○中間までの取組・成果** ・すべての計測、検査が正しく実施でき、治療指示書の配布や受診指導が十分に行われている。治癒指示書の提出率（眼科：41.3%）（耳鼻科：33.9%、内科：34.6%、歯科53.1%）全体で約40%となっている。 ・防災訓練は5月に2回実施。9月に2度目を実施予定。終了後にアンケート実施予定。 ・清掃分担の割り振りを決め、毎日清掃を継続実施している。生徒による清掃点検を実施し、教員による安全点検も実施している。 ・奨学金応募に関わる連絡を随時行い、対象者選考を実施した。 **○今後の方策** ・保健LHRは10月後半から11月前半にかけての実施予定。治療が進んでいない生徒対象に2回目の歯科検診を実施、健康指導を行う。 ・長期休業や行事前など清掃が行き届かない日もあったので、先生方の清掃指導も含め清掃活動の意識高揚を図る。	B	**○最終の取組結果** ・治療指示書提出率について、歯科では72.9%とコロナ禍前の状況まで戻っている。その他耳鼻科などでは40%程度となっており、症状の低下による通院率の低下と考えられる。来年度も早期発見早期治療を促していく。 ・保健LHRも計画通り実施され、生徒による健康意識に関するアンケートでは肯定的意見が80%を超えることができた。 ・生徒による防災意識に関するアンケートでは、肯定的意見が80%を超えている。1月の地震の際も模試中の3年生は即座に机の下に入るなどの自主的な行動がとれており、防災訓練の成果が身についている。 ・生徒による「清掃時間にはしっかりと清掃を行い、校内美化に努めている。」については90%以上が肯定的にとらえており、毎日の清掃活動は順調に実施できている。一方、教員側の同様のアンケートではまだ不十分と考える割合も高く、清掃指導の徹底が必要である。 **○次年度の方策** ・生徒の自主的な清掃活動を指導し、「気づいたら自ら清掃する」姿勢を身につけさせる。 ・今後も保健LHRや防災訓練を計画的に実施し，健康で安全な学校生活を送る意識を養っていきたい。	B

事務室	**○1年間の目標** ・校内の老朽化箇所、危険箇所について、県教委の担当部署に改修・更新等の要望を積極的に行い、解消を図っていく。 ・生徒・職員の安全・安心を確保するため、防犯のための設備等の充実を図っていく。 **○達成された姿** ・現時点以上に老朽箇所・危険箇所が解消されている状況 **○評価基準** 評価B:当初の計画どおりの整備・充実が達成できた。 評価A:当初の計画以上の整備・充実が図られた。	**○中間期まで** ・年度当初の施設関係の県予算要求までに校内の現状を再確認のうえ、年次整備計画を立案し、継続的な対県要望を行う。 **○年度末まで** ・予算化された事案については、早急かつ積極的な予算執行に取り組む。 ・未改修トイレの計画的な改修 ・廊下床材の計画的な改修　など	**○昨年度までの状況(課題)** ・現時点で長寿命化工事(大規模改修工事)の実施時期が見通せていない。 **○改善の方向性** ・老朽箇所・危険箇所を校内の意見を積極的に取り入れ、優先順位を考えながら予算確保し、教育環境整備を図っていく必要がある。	**○中間までの取組・成果** ・昨年度に発生した転落事故の対応として、窓の手摺設置を強く継続要望したが、県の対応が望めず、学校独自での対応となった。 ・弓道場の防矢ネット設置(危険箇所)の要望について継続的に交渉を行い、今年度は設置に至っていないが、来年度の重点対応箇所案件として認識されるに至っている。 ・未改修トイレの洋式化についても、来年度の重点対応箇所案件として認識されるに至っている。 **○今後の方策** ・様々な課題が解決されることが期待される管理棟の長寿命化工事については、R8・R9も実施されないとの情報を得ており、引き続き早期着工に向けて要望を続ける必要がある。	B	**○最終の取組結果** ・校内の老朽箇所・危険箇所については、校内予算の範囲での対応に止まったが、年間を通じて積極的な対応ができた。 ・県教育委員会で予算化された県査定事業(テニスコートの改修工事など)の執行は、予算化後、早急に実施した。 ・廊下の床材の計画的な改修、廊下の腰壁の計画的な改修などは、年度末の対応となったが、年度内で完了させる予定である。 ・年間目標にはないが、学校内の環境整備として永年実施できていなかった高木の伐採・剪定を始め、積極的な除草作業などの環境整備を年間を通して実施した。 **○次年度の方策** ・老朽箇所・危険箇所の対策に効果の大きい、管理棟等の長寿命化工事の早期実現に向け、県教育委員会への働きかけを更に強めていくことが必要がある。	B

(4) 外部から信頼される学校づくりの推進（総合評価： B ）

担当	１年間の目標（達成された姿）	具 体 的 取 組	昨年度までの状況（課題）と改善の方向性	中間までの取組・成果と今後の方策	中間評価	最終の取組結果と次年度の方策	最終評価
地域連携	**○1年間の目標** 地域とともに学び、地域に貢献する主体的な生徒の育成 **○達成された姿** 地域課題について考えたり、地域に積極的に関わることができる生徒が増える。 **○評価基準** ・学校評価アンケート 「地域連携」「社会貢献」に関する項目で、肯定的意見75%以上。 ・地域課題をテーマにした課題探究グループが、3グループ以上。 (評価A:両方が達成されている)	**○中間期まで** ・地域の課題や魅力を学び、地域への理解と関心を高めるため、2年生の課題探究を中心に、地域と係わる場面を複数回設定する。 **○年度末まで** ・活動報告会や地域住民との交流発表会を通して、成果の共有と振り返りを行い、地域との継続的な連携を見据えた関係性づくりを行う。	**○昨年度までの状況(課題)** ・学校評価アンケートの結果から、「岡山市や地元公民館、近隣の小中学校と連携した取組が積極的に行われている」と感じている教員は96.0%であるのに対し、「積極的に参加している」と回答した生徒は63%であった。 **○改善の方向性** 生徒が主体的に取り組めるような支援が必要と考える。	**○中間までの取組・成果** ・地域への理解と関心を高めるため、2年生の課題探究では、担当よりテーマ決めの段階で、地域にも目を向けるような積極的な呼びかけを行った。複数のグループを中心に、地元公民館や地元商店街に出向き、地域との交流やフィールドワークでの課題発見等、積極的に地域と係わる場面が見られた。 ・1年生の「社会貢献活動」では、より生徒が主体的に取り組める形態に変更した。 **○今後の方策** ・継続的な連携に向けた関係性づくりのため、引き続き、積極的に係わる場面を設定していく。 ・現在の関係がさらに発展するような連携方法を模索していく。	B	**○最終の取組結果** ・一宮公民館との連携は継続して行うことができており、防災ボランティアやザ・キッズ(小学生向け講座)、料理教室、パソコン教室などを通して、地元の異年齢の人々と交流する機会を得ることができた。 ・2年生の「社会貢献活動」では、中山間地域に出向き、地元の人々との交流を通じて、地域課題について考えることができた。 ・1年生の「社会貢献活動」では、将来、社会貢献できる人材となるために、新たに企業を訪問し、地場産業の魅力や特色を学ぶことで、地域の課題発見につながった。 ・2年生の課題探究では、地域課題をテーマにしたグループが、6グループあった。3月には一宮公民館で、地域の方々と、地域の課題やより良い街づくりについての意見交換を行う。 ・学校評価アンケート(生徒評価) 「地域連携」に関する項目　肯定的意見61.9%(R7)　←　63.3%(R6) 「社会貢献」に関する項目　肯定的意見88.7%(R7)　←　87.8%(R6) **○次年度の方策** ・ここ数年、一宮公民館との連携を核として、町内会や地元の方々との連携ができている。また、社会貢献活動では、今年度は新たな取り組みも行い、生徒の成長につながった。来年度は更に連携を強化し、生徒の活躍の場の提供に努めたい。	B
総務課	**○1年間の目標** 校内外へ向けて、本校の学校行事や授業の取り組みを積極的に発信し、一高サポーター、中学生にとって、学校の魅力や取り組みが伝わりやすい発信を目指す。 **○達成された姿** ホームページやSNSを通して、魅力ある学校の情報が発信されている。 **○評価基準** ・今年度から開設するInstagramのフォロワー数1000人以上。 ・オープンスクールでの参加者アンケートで、肯定的意見が80%以上。 (評価A:両方が達成されている)	**○中間期まで** 1. SNS、ホームページでの情報発信の充実 (1)Instagramを開設し、情報を発信する。 (2)生徒会と協力し、魅力ある情報発信の方法を検討する。 2. 教育課程の変更に伴う、学校紹介プレゼン資料の再編集 3. オープンスクール、学校説明会の実施内容の検討 **○年度末まで** 1. SNS、ホームページでの情報発信内容の精選 (1)SNS投稿内容の再検討 (2)生徒会との協力体制の確立 2. 学校紹介プレゼン資料の編集完了 3. オープンスクール、学校説明会の実施内容の検討	**○昨年度までの状況(課題)** ・オープンスクールについて、第1回は体験授業と座談会、第2回は授業見学を行っている。 ・部活動紹介が特定の部に限られている。 ・ブログの記事が大人向けの文章であるものが多い。 **○改善の方向性** ・オープンスクールでの座談会は評判が良いため、第2回も実施できないか検討したい。 ・多くの部が情報を発信できるように、生徒会と協力して情報発信をしたい。 ・ブログは、保護者や中学生が気軽に見られる投稿にしていく。	**○中間までの取組・成果** 1. (1)インスタグラムの運用を開始した。 (2)生徒会執行部とも協力し、投稿を行っている。8月末時点でフォロワーは約800人。 2. 学校案内Join Us、学校説明会資料ともに新カリキュラムで作成した。 3. 第1回オープンスクールは例年通りの形態で行った。 「座談会」「体験授業」すべての項目について肯定的意見が9割を超えている。特に、座談会での交流が有益であったとの回答が多かった。 **○今後の方策** 1. (1)(2)生徒会と協力し、生徒目線での一高紹介を行う。 HPにも同様の内容を掲載する。 2. 新カリキュラムの授業写真を撮影し、情報をアップデートする。 3. 第2回も座談会を入れられないか検討する。	B	**○最終の取組結果** 1. インスタグラムの運用を開始した。12月末時点でフォロワーは約900人。投稿数は20であり、十分とは言えない。 2. 学校案内Join Us、学校説明会資料ともに新カリキュラム版を作成した。中学校、塾での説明会も実施した。 3. 第1回オープンスクールの肯定的意見が90%超。 第2回オープンスクールの肯定的意見は80%超。 **○次年度の方策** 1. インスタグラムの投稿数が少なかったため、教職員間にも周知し、積極的な情報発信を行う。 2. 特色ある授業の内容だけでなく、学校行事や部活動の紹介にも力を入れたプレゼン資料を作成し、実施する。 3. 部活動見学をしている中学生が少なかったため、座談会等への変更を検討し、本校生徒との交流の場をつくる。	B

(5) 教育体制の整備・拡充（総合評価： B ）

担当	１年間の目標（達成された姿）	具 体 的 取 組	昨年度までの状況（課題）と改善の方向性	中間までの取組・成果と今後の方策	中間評価	最終の取組結果と次年度の方策	最終評価
管理職	**○1年間の目標** 50周年の節目を目指し、将来につながるビジョンの策定を行い、体制を整える。 **○達成された姿** 将来構想ビジョンの策定により、学校の未来が持続及び自走可能な組織運営となっている。 **○評価基準** A:将来につながるビジョンの策定ができている。 B:学校の現状分析と課題抽出ができている。	**○中間期まで** ・将来構想推進チームと情報共有しながら、学校の現状分析と課題抽出を行う。 **○年度末まで** ・将来につながるビジョンの策定を提案する。	**○昨年度までの状況(課題)** ・R6年度に申請したSSH事業は第Ⅴ期の先導的改革期に選ばれた。SSH事業は、校内体制を整えながら、第Ⅳ期までのプログラムを充実しながら実施することができた。 **○改善の方向性** ・創立半世紀に向けて、SSH事業や探究活動がこれまでと同じように持続的に推進できるよう校内の体制を整えていく。	**○中間までの取組・成果** ・創立50周年に向けて、将来構想推進チームで仮のビジョン「岡山大学合格日本一」「選ばれる学校」を策定し、職員会議で共有した。 ・将来構想推進チームを2つのグループに分け、仮のビジョン「岡山大学合格日本一」「選ばれる学校」の達成に向けて内容の検討をしている。 **○今後の方策** ・今後は、仮のビジョンに対してどんな課題があるのか職員に対してヒアリングを実施する予定。	B	**○最終の取組結果** ・これまでの取組をもとに、2学期末に、それぞれの教員が考えている学校の現状分析と課題等についてアンケートをとり、この内容をもとにして10程のテーマに分類を行った。 ・すべての教員が分類されたテーマごとに集いSWOT分析を行い、学校の方向性等についての共有を行った。今後は将来構想推進チームが中心となって意見のとりまとめを行い、教員間で情報の共有をはかる予定である。 **○次年度の方策** ・50周年に向けた将来につながるビジョンの策定を着実に行っている。今後は創立50周年に向けたビジョン(例えば「岡山大学合格日本一」「選ばれる学校」)を実行に移すための、具体的な取組や仕組みづくりを整えていく。	B